

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた、
科学技術・イノベーションの取組に関するタスクフォース 推進会議（第4回）

日時 平成27年10月30日（金）14：30～16：00

場所 中央合同庁舎4号館4階共用第二特別会議室

議事概要

○開会

・松本審議官挨拶。

【事務局】組織委員会が策定する「アクション&レガシープラン」に今回の9つの大会プロジェクトを含めていく予定を説明。（質問等なし）

（1）各プロジェクトの状況報告（推進体制、取組状況、解決すべき課題及び概算要求中の関連施策）

P J ①スマートホスピタリティ

【総務省】総務省から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】多言語システムやロボット関連では東京都と、電子地図関連で国土交通省と、観光情報のプラットフォーム関連では経済産業省と、すでに定期的に連絡調整されているということで、引き続き総務省を中心に連携して推進していただくようお願い申し上げます。

P J ②感染症サーベイランス強化

【厚生労働省】厚生労働省から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】先ほどの課題、ご説明の中の課題にございましたように、東京都、厚生労働省、国立感染症研究所等の関係者間で、大会における感染症対策の方向性を共有することが必要ということでございますので、関係の方々には、引き続き厚生労働省を中心に、連携して推進していただくようお願い申し上げます。

P J ③社会参加アシストシステム

【内閣府】内閣府から状況説明

【松本審議官】ありがとうございました。内閣府からプロジェクトの説明がありましたが、

本プロジェクトは、総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省も関係省庁でございます。それぞれ、今の説明への追加、及び、検討すべき課題、また、共有すべき課題等ございましたら、ご意見いただきますようお願いいたします。

総務省よりお願いします。

【総務省】先ほどの説明のとおり、来年度に向けて自律型モビリティシステムの開発実証として、自動走行や自動制御技術の研究開発のための予算要求を行っている。これは、「ありたい姿」として挙げられている、障がい者・高齢者の自立支援を促進するための行動支援システムの基盤技術を開発することにつながる施策である。予算が確保できれば、このようなシステムの開発に役立てることができる。引き続き関係省庁の皆様と連携をとらせていただきたい。

【松本審議官】ありがとうございました。それでは文部科学省よりお願いします。

【文部科学省】この10月に発足したスポーツ庁において、パラリンピックでメダルを獲得するための、ターゲット競技を対象とした競技用具、トレーニング品、コンディショニング機器の開発に昨年度から着手している。現在、来年リオのパラリンピック、2018年の韓国での冬季パラリンピック大会に向けて、競技団体から要望を受けて、関連する競技の競技用具等の開発を行っているところ。平成28年度の要求は、オリンピック・パラリンピック競技あわせて40億円、パラリンピックに関連する研究開発としては約4.8億円を要求しているところ。今後、アスリート向けの用具等の開発を行っていくが、一般用具の共通となる要素技術の開発など、そういった分野の連携に留意していきたいと考えている。

【松本審議官】ありがとうございました。それでは厚生労働省よりお願いします。

【厚生労働省】厚生労働省では2つ取り組んでいる。1つは頸髄損傷患者の体温調節支援、もう一つは重度障がい者の方のBMI（ブレイン・マシン・インターフェース）を使ったコミュニケーション支援の2点。平成28年度は体温調節システムについては試作機を作成する。BMIは試作機を使用したうえでどのような実際上の課題があるかを見ていく。今後の課題として、体温調節についてはウェアラブルにすること、BMIはノイズが出るので、その対策が課題となっている。今後とも各省と連携させていただきたい。

【松本審議官】ありがとうございます。経済産業省よりお願いします。

【経済産業省】前回の推進会議の場において、NEDOで平成5年度から実施している福祉用具実用化開発推進事業の成果を取りまとめたパンフレットを配布させていただいた。引き続き、大会に向けてこの成果の活用を検討いただければと考えている。

【松本審議官】ありがとうございました。引き続き各省連携して推進するようお願いいたします。

【内閣府】内閣府から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】BRT 協議会等、精力的に対応されている東京都から、ご意見がありましたらお願いします。

【東京都】BRT 協議会で検討しているが、協議会の中には国土交通省の関東運輸局も入っており、実際の現場でどうするか貴重なアドバイスもいただいている。この場を借りてお礼申し上げる。技術開発は SIP で精力的に進めているが、併せてバスステーションをどうするかは東京都で進めるので、今後ともよろしくお願したい。

【松本審議官】引き続き関係省庁で連携して推進してください。

P J ⑤水素エネルギーシステム

【内閣府】内閣府から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】説明にもありましたように、内閣府主導でデモ・実証概要案を検討中ですが、関係される経済産業省、東京都から具体化な取組方針や課題など注意すべき点がありましたら、お願いします。

【経済産業省】紹介いただいたプロジェクトで検討が進んでいる技術は、概ね要素技術の研究開発段階にあるものだと認識している。東京大会が 5 年後ということで、成果として社会実装するには、入念な計画が必要であると考えている。技術の事業化の可能性、経済性、社会展開の見込み、東京大会の準備スケジュール等を踏まえ、内閣官房、東京都、組織委員会とよく調整し、計画の立案・推進をしていただきたい。経済産業省としても水素燃料電池関係の研究開発・技術立証を行っているところであるが、東京大会に向けて、内閣府を含む関係各省とどのような役割分担・連携ができるのか、検討を進めていきたい。

【東京都】とくにありません。

【松本審議官】引き続き関係省庁で連携して推進してください。

P J ⑥ゲリラ豪雨・竜巻事前予測

【内閣府】内閣府から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】今年の夏も水災害などが発生していますが、国土交通省からご意見がございましたらお願いします。

【国土交通省】高度化された降雨情報を活用して、河川水位予測や水害予測を高度化する

ことを行っている。これにより、水災害の情報提供・注意喚起をリアルタイムかつ居場所にあわせて情報提供できるようにする取組を進めているが、一方、それを活用するモデルやシステムを構築し、実際に現場で利用できるようにしていく必要がある。国あるいは地方公共団体で施設管理者が行う防災訓練等において、問題点・課題を抽出し、モデルにフィードバックしさらに精緻なものにしたい。使えるモデル、使える組織を作っていく。

【松本審議官】引き続き関係省庁で連携して推進してください。

P J ⑦移動最適化システム

【内閣府】内閣府から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】おもてなしとしての取組もありますが、その一方で人の流れをモニタリングする取組もあります。警察庁から、このプロジェクトに対する期待とか課題とかありましたらご意見いただくようお願いします。

【警察庁】このプロジェクトの技術やサービスは主に施設管理者をはじめとする民間の企業において実現・活用されることが想定されていると承知している。これらの技術・サービスの普及は結果として社会の安全につながると考えているので、警察庁として注視させていただく。

【松本審議官】引き続き関連省庁で連携して推進してください。

P J ⑧新・臨場体験映像システム

【総務省】総務省から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】革新的なデバイス技術の開発や、事業主体の具体化などでは経済産業省との連携が重要です。総務省とよく連携して推進していただくようお願いします。

P J ⑨ジャパンフラワープロジェクト

【農林水産省】農林水産省から状況報告

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】この成果をどこで活用するのか大切であります。東京都、組織委員会と十分に連携して進めていただきますようお願いします。

【松本審議官】他に全体を通してご意見などお願いします。

【防衛省】防衛省は、現在のところ、それぞれのプロジェクトの担当省庁として参画していないが、我が国の安全、国民の安心を支える省庁として、プロジェクトの進捗に伴っていろいろな課題が出た場合、防衛省として協力できる場合はぜひ貢献していきたいので、ご教授願いたい。

【内閣官房オリパラ競技大会推進本部事務局】推進本部事務局として大会の円滑な準備と確実な大会運営、後世に残る多くのレガシーを形成するということで、科学技術イノベーションの取組に期待している。他方で、あと5年しかないということで、先進的な技術、要素技術の開発も含まれているため、予算の確保、関係事業者・団体との調整、着実な開発の促進、社会の実装という2020年にうまく間に合い、世界に発信できるように尽力いただければ幸い。

【松本審議官】今回頂いた各プロジェクトの解決すべき課題等は、後日、事務局にてまとめた上で、改めてご連絡します。

(2) 大会に向けた進捗状況

【組織委員会】組織委員会から説明

【松本審議官】ありがとうございました。補足説明、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

【松本審議官】一点、アクション&レガシープランの中に9つのプロジェクトが含まれるように調整をお願いします。

【組織委員会】わかりました。引き続きよろしくお願いします。

(3) 今後の予定

【事務局】事務局から2月イベントなど今後の予定を説明。(質問なし)

・森本統括官挨拶

本日は、関係府省、東京都、組織委員会の方々からご意見をいただいた。今後推進会議を開催させていただきながら、着実に進めていきたい。

・岡安連絡調整担当部長挨拶

都は、本日報告のあった各プロジェクトの状況も踏まえ、ハード、ソフト両面でのバリアフリー化の実現など、様々な分野で科学技術を活用しながら、開催都市として、2020年大会の準備を進めていく。引き続き、皆様方にご支援・ご協力をいただきながら、取組みを進めていく。

閉会